

わたしは寺山修司を知らない。

もちろん、「寺山修司」という人物の存在は知っている。演

劇実験室「天井桟敷」の主宰であり、「言葉の錬金術師」と呼ばれた天才であったことも知っているし、戯曲も何本か（本当に申し訳ないくらいの「何本か」ですが）読んだことがある。しかしわたしは寺山修司を、寺山修司の演劇を知らない。そしてこれからもきつと知ることはない。寺山修司はわたしが生まれる前に亡くなっているからだ。

今回劇団赤い風が上演した『奴婢訓』は、そんなわたしの知らない寺山修司が遺した戯曲のうちの一本である。チラシの文章から引用させて頂くと「舞台は東北の一寒村にある農場。交代で主人を演じる遊戯に興じる奴婢たち」の物語だ。「物語」と書いたが、わかりやすいドラマではない。どちらかと言うと、「主従ごっこ」というテーマを

主軸に、舞台と登場人物を共通させた連作の詩のようにわたしは感じた。そんな今作を観劇し

てわたしが考えたのは、現代におけるアングラ演劇の限界についてである。寺山修司が書いた戯曲の内容についてはわたしよりも深く語れる方が大勢いらっしゃるので（というか自分の浅い知識で語るのが申し訳なさすぎるので、今回はこの点にズームした劇評を書かせて頂きたい。

受付でわたしがまずすれ違ったのは、顔に白塗りメイクを施した不気味な女だった。でんでん太鼓を片手に背中に背負った赤ん坊をあやしているが、まずその赤ん坊は人形だし、女は赤ん坊ではなくどこか虚空をぼんやり見つめブツブツと聞き取れない言葉を呟いている。ドキドキしながら劇場に入ると、各々不気味な恰好のキャストたちが不気味な表情と動きで中をうろつきまわっている。充満する非日常感に胸を躍らせながらわたしは客席に着いた。

しかし、この日の興奮はこの瞬間がピークだった。

それは本編が下手な芝居だったというわけでは決していない。

奴婢訓

作／寺山修司 演出／大森健一

令和のアングラ 劇評 スワンポート 藤原さつき



むしろ役者陣は達者で違和感を感じること一度もなかったし、演出も戯曲の世界を風のスタジオに巧く立ち上げていた。個人的には照明効果の素晴らしさも印象に残っている。舞台のおどろおどろしい雰囲気をつくりが更に上乗せしていた。「さすが劇団赤い風！」と心から感じられる、上質なアングラ芝居だったと思う。わたしが引掛かったのは、令和の世でアングラをやる上での難しさを、この『奴婢訓』は果たして克服出来ていたのか、という点である。

例えば、今作の劇中に、奴婢の男が天井に吊り下げられ、同じく奴婢の女に罵声を浴びせられながら打たれる、というシーンがある。男の口から洩れる喘ぐような声も相まって、かなり気味の悪いシーンのはずだ。しかし、わたしは「目隠しされた宙ぶりの男の傍らで不敵に笑う女」という絵面に、気味悪さ以上に中途半端な面白さを感じてしまった。同じような構図のシーンを、様々な創作物の中で何度も見たことがあったから。刺激の最大の敵は「慣れ」であり、繰り返されれば非日常は画面の向こうの日常になってしまう。寺山修司の時代では見たこともなかったような光景も、現代では新鮮味を失ってたりするのだ。それは決して寺山修司が劣っているというわけではなく、単に寺山修司の影響を受けた作品が世に出続けた結果だろう。

このシーンだけでなく、現代でアングラをやることの限界を意識してしまう箇所がいくつかあった。もちろん今回の『奴婢訓』で、寺山修司の時代の『奴婢訓』と同じくらいのショックを受けた方もいらっしゃると思う。刺激的な表現だけが寺山作品やアングラ作品の魅力なわけでもないだろう。要はわたしが、そしてもしかしたらわたしと同程度創作物に慣れ親しんだ誰かが、その文化に浸りすぎた脳みそのせいで今作を楽しみ切れなかったのが悔しい、というだけの話なのである。ただ、このありとあらゆる刺激に溢れた世の中で、アングラ（だけではない）芝居が観客に強烈な非日常を提供するのは、相当なアイデアが必要なのではないか。ただそれでも、この時代にアングラを観たいとわたしは切に思うけど。

わたしは寺山修司を知らない。そして今後とも知ることはない。それって滅茶苦茶悔しいですよ。だって凄かったんでしょ？寺山修司。わたしだってこの目で観たかった。でも盛岡には劇団赤い風がいる。今回だってフスト、ストロボが激しく点滅するなかで役者が寺山修司の言葉を叫ぶシーンは、今もわたしの脳裏に焼き付いて離れない。次回、劇団赤い風が令和のアングラをやるときは、もっと匂い立つような非日常でわたしの脳みそぶん殴ってくれるはずだと期待している。

2019年11月3日 マチネ
いわてアートサポートセンター

風のスタジオ

* * *

県内劇団短信

ボーイズドレッシング（盛岡市）

岩手県盛岡市を拠点とする劇団、ボーイズドレッシングです。

私たちは2016年に旗揚げをし、プロデュース公演を含めると過去5度の公演を行ってきました。

『岩手で一番チャレンジングな集団でありたい』という思いで、昨年9月には、3ヶ月の滞在制作における初の東京公演を下北沢 OFF・OFF シアターにて行いました。

『演出のやりたいことがわかりません』『妥協してないですか？』

自分らが創りたいものの追い求める前に、いつの間にか効率化を最優先して居た自分がいる事を知り、ショックを受けた稽古初日。1日6時間の稽古と、毎晩の熱い演劇論の飲み交わしを通じて、東京の演劇人との距離も温度も徐々に縮まり高まっていきました。

現地のプロの役者とスタッフで創った、フロム盛岡 & メイドイン東京のこの芝居の創作を通して得た、自信と経験、そして思ったよりも少なかった挫折と屈辱を武器とバネに。今後もジャンルと場所に囚われることなく、縦横無尽に演劇を創って参ります。

今年の活動としては、3月に1ヶ月間限定で市内にアトリエを構えて、そちらで公演を行う予定です。

また秋には主宰ペロ・シモンズの新作を予定しています。

ボーイズだけど性別問わず団員も募集中です。



松…まず、あまりにもストレー

トな題名、そして舞台も、この芝居に込められたものが、若い役者たちの躍動的な演技から心地よく真つすぐに伝わってくる気持ちよさがあつた。

竹…これだけの際どいテーマを
あんなふうに攻めるのはすごい。

梅…よくやった。

松…古い曲がうまく使われてい

たね。

竹…そう、客入れのビング・クリスビーの『ホワイトクリスマス』。新聞紙に平成を表す文字、言葉、写真などをコラージュして垂れ幕にした刺激的で猥雑な舞台装置と曲とのかすかなミスマッチ感が、開演を待つ心境としてとてもしっくりきた。

梅…二人のナオミが復讐の拳銃を構えるカッコイイ決めポーズに『ナオミの夢』とは笑えた。私たちもまだ20代（一）のヒット曲。でも、アナクロ感が場面に合っていた。

松…女の登場人物たちの行動と発言は明確で発信力があつた。

竹…一方、男の登場人物たちの

存在感と発信力が今一つ？

梅…女の問題の闘争目標は一定程度明確だからね。男社会の価値観の土台はかなりシロアリに食われてきてはいるものの、いまだ男の問題の闘争目標はよく見えない？そういう演出？

松…「男のロマン」幻想はまだまだ根強い？ストリップパーナオミは、脱がない「ストリップインイマジネーション」で

『男どもの想像力の欠如』に活を入れ、閉塞感を打ち破れ！という。

竹…最後に日本中の石頭をかち割る旅に出るのも、女のラブ子ちゃん。

梅…60〜70年代にも『想像力が権力を奪つ』という言葉があつたが……へあれから50年。

松…男系男子のみ皇統継承つても男のロマンの範疇か。

竹…女性天皇賛成の根拠に男女平等や基本的人権が挙げられることがあるけれど、ジェンダーギャップ世界121位、人権軽視の国で都合のいい時だけ持ち出してほしくない。そもそもそういうものを超越した存在として位置付けられてるわけだから。

梅…それでいいのかどうかから議論しないかね。その点『団

子屋の娘が団子屋を継ぐように、天皇の娘がなんで天皇を継いじゃいけないの？』というラブ子の主張は小気味よかつたね。

松…この芝居の核心は、やはり皇后の冷凍保存、皇居にかくまわれる麻原彰晃ということでしょうかね。

竹…皇后の冷凍は『男子出産の

可能性保持』ということだけど、即位に伴う一連の儀式の、伝統の強調と物々しさにも『冷凍保存』を思わせられた。梅…皇后と麻原のペアリングとというのは大胆不敵で不気味な発想。日本人の心性のあり様を根深く縛りながらタブーとして隠され曖昧にされているものとして、天皇制とオウム真理教は対極にある存在と読み取れたが。

松…レイプという人格否定によつて生まれた息子、皇室の婿にして皇統の中に組み入れることで復讐を遂げるという発想もスゴイ。『皇統』というものの虚実への挑戦。竹…まず息子を国民的スターに育て上げしかる後に、というのは皇室のアイドル化を思わせる。

松…レイプという人格否定に

松…オウム、池袋・秋葉原通り魔、「やまゆり園」大量殺害、社会構造の地滑り的な変容……

竹…まず息子を国民的スターに育て上げしかる後に、というのは皇室のアイドル化を思わせる。

竹…そう、だから若い世代、現役世代がこの芝居をどう受け止めるのか、私たち『終わっ

梅…「令和↓れえわ↓ねえわ↓無えわ」もケツサク、麻原のご託宣としたところが秀逸。

竹…「令和↓れえわ↓ねえわ↓無えわ」もケツサク、麻原のご託宣としたところが秀逸。

松…タブーの鎖を断ち切つて心と思考を解放するための仕掛けは、このほかにも全編に満載。

梅…いわゆるアングラの手法を今の時代の自分の手法として換骨奪胎して楽しみ、観客も楽しませているところが藤原瑞基氏の強み、これから期待したい。

竹…チラシに「ろんずるまえにはじけてしまえはじけたあとにろんじてしまえ」

2019年11月16日（土）
いわてアートサポートセンター

『ちりぢり』に乗せられて私

風のスタジオ

劇団ちりぢりは 令和を認めない

作・演出／藤原瑞基

ろんずるまえにはじけてしまえ
はじけたあとにろんじてしまえ
—松竹梅三婆鼎談—

劇評

現代時報 石原黎子

もりげき八時の芝居小屋第166回公演
八時の芝居小屋制作委員会プロデュース

もりげき王 2019

劇評 劇評 というか 雑感 似内 仁

予選Aブロック 2019/9/4

★ 嵯峨瞳 (片目で立体視、第6代もりげき王)
「ヤクルトレディー猪又さん」

泉優奈 (Hydrangea)
「俺の前だけでかけて」

佐藤央臣 (演劇ユニット幻灯)
「家出論 (佐藤くんの遺書より一部抜粋)」

★ 藤原瑞基 (劇団ちりぢり)
「道德の時間」

星君佳 (ライナーノーツ)
「秋の頃」

予選Bブロック 2019/9/5

★ 安保美沙 (劇団しばいぬ、第2代もりげき王)
「Lock ON "G"」

小堀陽平 (bridge)
「全能幻想男性のためのエンドレス・スキンケア・サマー」

★ 斎藤英樹 (劇団ゼミナール)
「A I 芸人」

★ 成田紫野 (はかばか)
「老巫」

藤原さつき (スワンポート)
「ハイチュウ人間は夜歩く」

決勝戦 2019/9/6

成田紫野 (はかばか)
「老巫」

安保美沙 (劇団しばいぬ、第2代もりげき王)
「Lock ON "G"」

★ 嵯峨瞳 (片目で立体視、第6代もりげき王)
「ヤクルトレディー猪又さん」

藤原瑞基 (劇団ちりぢり)
「道德の時間」

斎藤英樹 (劇団ゼミナール、初代もりげき王)
「A I 芸人」

最近、ショートホラームービーにはまっている。ユーチューブなどで見ている。一つ見終わるとすぐ次のムービーが待ち構えている。飽きない。いつでも見れるし、映画一本見た感じになるのが不思議だ。印象というものを上手に使っているからか。しかし、手軽で便利なものの中になったものだ。ほんの三昔前は、演劇公演など見たいものは、いつ、どこでやっているか一生懸命探して、そこまで出かけて行って、手間暇かけて、やっと見る事ができた。そしてその作り手、演者の醸し出す世

界にどっぷりとはまり、わざわざ時間と労力をかけていくものだから、少々尺が長くても、ああ、じっくり見たなー、おもしろかったなーって見れた。(そもそも最近は仕事の休みもなく、尺の長い芝居を見れなくなった。今は飽きずに長い時間芝居を見れるか不安である) もりげき王は短いながらも次々とそれぞれの世界観や面白さが味わえる、演劇の大枠をもった一つの新たなエンタテイメントと言えるかもしれない。

さて今回のもりげき王であるが、どの作品もショートながら見ごたえがあった。どの作品も印象に残る場面があり、また、それぞれがあるレベルまで洗練されていた。回を重ねるたびに上演作品がハイレベルになっていくものだと感じた。それにしても全体的に雰囲気ホラーのように怖い。「家出論(佐藤君の遺書より一部抜粋)」(佐藤央臣)も、何となく雰囲気怖い。題名に「遺書」だし。トランクと傘がいい味出していた。あのトランクには本当は何が入っていて、あの傘は本当は何から何を守っていたんだろう?とちよっ

と考えちゃった。「秋の頃」(星君佳)も雰囲気怖い。セリフや動きが意図的な不協和音。見ると呪われる不気味な絵画を眺めているような雰囲気。狂気をまとった女というものはない。終盤近く、狂気の女優さんの前を俳優さんが走り抜けた時、女優さんの髪がサーッと浮かんでたなびいていた。これは意図的な演出ではないと思うが、狂気の中にある柔らかな女性が透けて見えるような感じがして、ストーリー以上に強烈で印象的なシーンであった。個人的には明るい雰囲気の中に怖さがあり、その

逆もまたしかり、の方が観るものにインパクトを残すものだと思う。そういう意味では「俺の前だけでかけて」(泉優奈)は素直なストーリーでありながら怖かった。登場人物の年齢がややミスマッチなところとか主人公の行動とか板の上にある不安定さが(これも作り手は意識してないと思うが)現実感との微妙なズレを感じさせる。ピュアな物語の中に、そのズレを意識的に作りこめるようなら、観るもの側に何らかのインパクトを与えられるもつと深みのある芝居になったと思う。「ハイチュウ

ウ人間は夜歩く」(藤原さつき)は独特の世界観がある。藤原氏のつくる芝居を観るのは初めてだが、あの独特さは是非継続してほしい。その世界観を演者さんに無理なく体現させていくところが今後の目指すべきところか。「Lock On G」(安

保美沙)は第2代もりげき王。いつも思うのだが作品を包む全体的に柔らかで優しいテイストなのは作者の人柄か、演出の意図か。いつか大坪ゆうき氏のはまり役というものを見てみたい。「全能幻想男性のためのエンドレス・スキнка・サマー」(小堀陽平)の、事象の向こう側にある問いかけそのものを注意深くそしてスマートに隠しつつ、静かに明らかにしていく演出・脚本構成のテクニックはさすがである。ラストシーンの主役にしたたる照明のアンバーが印象的であった。1人芝居で緊張感を崩さずに演じ切る柳沢あゆみ氏の演技も素晴らしかった。「老亜」(成田紫乃)は今回のラインナップの中では少し異色の作品。それだけに目を引き

た。高齢化社会のひずみを教訓臭くない現代的課題のホラーといえるストーリーが秀逸であった。弟役の池田慣作氏のどこことなく飄々とした演技もマッチし、作品に奥行きを広げていたように思う。

「AI芸人」(斎藤秀樹)は呼吸のあったかけあいと突っ込みはさすが。AIおじさん2人がたまらなく愛おしく感じてしまった。ただのおじさんに深みを持たせる、それを生かせる演出はベテランの技である。「道徳の時間」(藤原瑞基)は、いやー、いいものを観させてもらった。小道具として持ち込んだラジカセが壊れるというハプニングをいろいろアドリブを交えながら乗り越え、出番を全うする姿は、これ、もう一つの作品だよな? ライブの中のライブ、これこそ生きた演劇というものだ。これが計算だったとしたら、本当に末恐ろしい。こんな経験をした役者は強くなる。藤原瑞基氏は、今の盛岡の演劇シーンで、間違いなく勢いのある役者の一人といえるだろう。

優勝作品の「ヤクルトレディー猪股さん」(嵯峨瞳)。圧倒的な疾走感あふれる作品で見事2連覇。完成度、リズム感、演者のあまり具合、笑劇度と切なさと、現実と妄想、ショート作品の中でよくぞハメこんだものだ。素直に面白かった。

印象的なシーンというもの、作り手側の意図と反してハプニング的に発生するものなのかもしれない。もちろん芝居を適当に作ってはいそんなシーンに巡り合うことはない。どの作品にも芝居に対するある種の生真面目さを感じた。(いい意味で)

もりげき王はやっぱりどこかショートホラームービーに似ている。印象に残るシーンもある。あー観たなー、おもしろかったなー。長編を1本観た感じがした。そう思える「もりげき王2019」であった。

*
*
*

Interactive

インタラクティブ

▼仙台で、浜通り舞台芸術祭2020プレ企画 青年団+東京藝術大学+大阪大学ロボット演劇プロジェクト『アンドロイド演劇「さようなら」仙台公演』を見てきました。これは2010年に初演され、各方面に大きな反響を巻き起こし、2015年には深田晃司監督により映画化された作品です。

▼いわゆる役に立つロボットのような、何かの工作をしたり、手伝ったりということはせず、会話の相手をしたり、その人の気分に合わせて詩を朗読したりするというアンドロイド。

▼死を目にした女性に、詩を朗読して聞かせたり、会話の相手をしたりしますが、当然その女性は先に亡くなってしまいます。それから長い時間が過ぎ去り、そのアンドロイドは、福島の人が入れない海辺で、吊いのための詩を朗読する、という新しい役割を与えられます。

▼アフタートークで登壇した平田オリザ氏は「ロボットやアンドロイドから想像される役割から、最も遠いことを組み合わせた」と語りました。お相手の柳美里氏が「人形ってなんか、寂しいんですね」と言う。「ロボットは元々寂しいんですよ」と応じ、話題はロボットと演劇から、お二人のこれからの活動などに話題が広がりました。

▼プレ企画と銘打たれているように、今年、オリンピックの期間に合わせて「浜通り舞台芸術祭2020」が開催されます。3月に完全開通予定の常磐線の車中、上りと下りで、平田オリザ作と柳美里作、二本の演劇が上演されるようです。(くらもち)

▼本記事に対する感想、反論、劇評に対する批評、他、さまざまなご意見を募集しております。本紙に挟み込んであるアンケート用紙を気軽にお使い下さい。

▼本通信は、地元の演劇公演の劇評を中心とした演劇通信です。盛岡劇場、市民文化ホール(マリオス)、キャラホール、姫神ホール、いわてアートサポートセンターの各受付・ロビーに置いてあるほか、地元劇団の公演でも無料配布されます。また、個人スポンサー(2口以上)になっていただいた方には1年間無料送付いたします。

●投稿・読者アンケート・感劇地図送付申込みは

〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町3-1

盛岡劇場気付 感劇地図編集委員会

FAX 019-622-1910

電子メール: kangekimap@gmail.com

●感劇地図スポンサー

小野澤章子さん、田中乗子さん、東條元昭さん、久慈鰐堂さん
ありがとうございました。

◆感劇地図編集委員

三浦 隆(代表) くらもちひろゆき(代表代行)

落合 昭彦 佐藤 浄 三浦 貴之 鈴木 優子

前川 寛子 安藤 奈津美

極寒の師走の夜、真夏に見た芝居を思いながらこの文章を書いている。

遠い日に見た芝居を思い出すとき、よく浮かぶのはとりわけ鮮明なシーンだ。私の場合は演劇でも映画でも、何故か写真のようにペラリとした画像となつて臉に投影されることが多い。そのなかで「左首に愛してる(読点は付けない)」はちよつと特殊な立ち位置である。私があ作品を想起すると、五月の朝、飛び立ったタンポポの綿毛にそよそよと頬を撫でられるような空気を連想するからだ。

ある日、花屋「シエロ」の前に倒れていた不思議な少年(山田亜久斗)。彼は花屋を営む江口夫妻(高村明彦、関田由美子)から『ハル』と名付けられ、四季を彩る花々とともに、自らの生命の行く先を思案する。少年がかつて歩いた道を辿るように現れるおんなのこ(伊藤菜)や、毎夜寄り添いあって眠るおじいさん(上野敏明)とおばあさん(石原黎子)。やがて季節は巡り――。

現代時報第21回公演

左首に愛してる

作・演出／榊原明德

劇評 「もっと高く、もっと遠くへ―浮遊感を具現化する難しさ―」

本紙編集委員 安藤奈津美

舞台装置はごくシンプル。上手におじいさんとおばあさんが眠るベッドが置かれ、下手に木枠で抽象的に組まれた花屋が建っている。

極力具象を排した印象の舞台で展開されるのは、先に記した通り、かなり繊細な手触りのストーリーである。きれいな心はランドセルにぶちこんで捨てた身としては、あらずじただけで居たたまれなくなるようなピュアさだ。また、かように純度が高

いとそれはそれで難しいもので、セリフやシチュエーションの上滑りが山積み、ドン引きしたまま客席に置き去りにされる事態にだつてなりかねないだろう(外から見れば秀逸な喜劇ともとれるシチュエーションだが)。そんな悲劇に至らなかつた最大のフアクターとして山田亜久斗という役者を挙げたい。物語の始まりから終わりまで、舞台から数ミリ浮かんでいるような浮遊感。どこか彼方を眺め、えもいわれぬ柔和さと近寄りたたさが共存する黒い瞳。そのくせ江口夫妻とのふれあいとは人間臭くて、だからこそ『ハル』はどうなるうとするのだろう」という観客の興味を終演まで惹きつけつるのだ。繊細な世界観の象徴のような『ハル』を、彼はしっかりと表現していた。

閑話休題。

本公演で、ある意味最も印象的だったのが、終演後に書き始めたアンケートの問いだ。「生まれ変わったら何になりたいですか?」という主旨の質問である。

もおり、奇妙にウキウキした余韻を味わった。

年の瀬から厳しい寒さの冬を越え、やがて暖かな春がやってくる。四季の営みは今も昔も変わらない。大地を彩る花々も、いつかどこかで見たように、芽吹いて育ち、花を咲かせ散っていくことだろう。

世界の流れは変わらなくてもいつか「私」は居なくなる。そんな日や、その日の先に思いを馳せられたあの劇場の空気は、いつか世を去る前にほんの少しだけ思い出せたら「人生そう悪いもんじゃなかったかな」と笑えそうで悪い気はしない。

やっぱり「生まれ変わらなくても良い」という思いに変わりは無いけれど、「生まれ変わるなら〇〇がいい」という思いだつて、そうじゃない考えだつて、たくさんこの世にあっていい。だからこそ、私はこの作品に驚き、楽しめたのだから。

(文中敬称略)

あえて言うなら演出面への指摘になつてしまつが、あのフワツとした空気感にもっと深く深く浸らせてほしかった。どこが明確な要因ということではないけれど、全体的にあと一步のめり込みきれない壁を感じてしまった。選曲はそれで良いのか、

2019年8月25日 14時
盛岡劇場タウンホール



	日	開演	公演団体／公演名	会 場	チケット	問い合わせ先
2	15(土)	14:00	第17回雫石町民劇場 「雫石夢物語」	雫石町中央公民館 野菊ホール	一般前売 1,000円 当日 1,200円 高校生以下無料 (要整理券)	雫石町中央公民館 ☎019-692-4181
	16(日)	14:00				
	16(日)	10:30 14:30	第33回釜石市民劇場 「釜石の赤ひげ 小泉日出雄伝」	釜石市民ホール TETTO ホール A	前売一般 1,000円 中学生以下 500円 当日一般 1,300円 中学生以下 700円	釜石市民劇場実行委員会 ☎090-7798-2307
	22(土)	13:00	*スワンポート 第2回公演 「Hello,Space.」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売一般 1,500円 高校生以下 1,000円 当日一般 1,800円 高校生以下 1,200円	制作部 ☎080-5573-6539
	22(土)	18:30	第44回花巻市民劇場公演 「響けミラノの空に ～伊藤敦子物語～」	花巻市文化会館 大ホール	一般 1,000円 高校生 500円 中学生以下無料	花巻市文化会館 ☎0198-24-6511
	23(日)	14:00				
	22(土)	17:30	不来方高等学校演劇部&盛岡南高等学校芸術部放送演劇班 2019年度 冬の合同公演 「アラウンドワールド AROUND A WORLD +創作短編3本」	盛岡劇場 タウンホール	入場無料	不来方高校(佐々木) ☎019-697-8271
	23(日)	13:00				
	23(日)	10:00 15:00	第36回奥州胆沢劇場 「魂のはだて」	胆沢文化創造センター 大ホール	前売大人 1,500円 高校生以下 500円 当日大人 1,800円 高校生以下 700円 ペアチケット 2,500円	奥州胆沢劇場実行委員会事務局 ☎0197-46-2133
	24(月・休)	14:00	盛岡二高演劇部 自主公演 「七人の部長」	盛岡劇場 タウンホール	入場無料	盛岡二高(小林) ☎019-622-5101
3	24(月・休)	10:00 14:00	盛岡第三高等学校演劇部 冬季自主公演 「湧いて出てくる袋の私」 「独立思考」	盛岡第三高等学校4階 おおとりホール	入場無料	盛岡第三高等学校(千田) ☎019-661-1735
	24(月・休)	18:00	tasse trial vol.4 ジャグリングダンス 山村佑理ソロ 「サイ」	Juggling Dance Studio tasse(タス)	入場料500円 +投げ銭制 (1ドリンク付き)	tasse ☎080-7946-1246
	29(土)	19:00	「まちに舞台を、」プロジェクト第7弾 「3人芝居(仮)」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売・当日共500円	「まちに舞台を、」プロジェクト ☎090-6458-5267
	7(土)	19:00	2/29 公演中止, 3/7 公開稽古変更	宮古市民文化会館 多目的研修室		
	1(日)	14:00	トム・プロジェクト プロデュース 「男の純情」	花巻市文化会館 大ホール	一般 3,000円 小中高生 1,500円	花巻市文化会館 ☎0198-24-6511
	7(土)	17:00	*劇団 Square Circle 「ノモノモノがたり」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売大人 700円 高校生以下 500円 当日大人 1,000円 高校生以下 700円	代表 ☎080-1661-3931
	8(日)	11:00 14:00				
	7(土)	18:00	*ロケットパンチ連合 「ヒッキー・カンクントルネード」 「熱愛!愛?愛??」	盛岡劇場 タウンホール	入場無料	ロケットパンチ連合 ☎090-7067-6985
	8(日)	13:00				
	12(木)	20:00	*もりげき八時の芝居小屋第170回 八時の芝居小屋制作委員会プロデュース なんだりかんだり読みがたり Vol.26 「また次の春へ 第二楽章」	盛岡劇場 タウンホール	前 売 1,000円 当 日 1,200円 mフレンズ 800円	盛岡劇場 ☎019-622-2258
	13(金)	20:00				
	14(土)	13:30	公演中止	盛岡劇場 メインホール	前売一般 3,500円 ペア 6,500円 U-25 3,000円 高校生以下 2,000円 当日各500円増	東北ルーツプロジェクト ☎070-6451-3325
	29(日)	13:30	TOHOKU Roots Project vol.3 「煙が目にしみる」	大船渡市民文化会館 リアスホール		

2020.2.15 ~ 2020.3.29

← 2020.3.14 ~ 2020.5.17 は P8 を参照ください

上記表内の[*]印は盛岡市民演劇賞 対象作品です

TORYO
KOHSOKU

豊かな印刷表現がビジネスチャンスを創造する
杜陵高速印刷株式会社
TEL (019) 651-2110(代)
www.toryokohsoku.com



	日	開演	公演団体／公演名	会 場	チケット	問い合わせ先
3	14(土)	15:00	* 岩手大学劇団かっぱ第36代卒業公演 「オボテテルの涙」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売一般 1,000円 学生以下 800円 当日各200円増 リピーター割500円 (当公演の半券をお持ちの方)	制作部 ☎090-4960-3904
	15(日)	11:00 15:00				
	14(土)	17:00	銀河ホール演劇部 第三回公演 「ノスタルジアリズム」	西和賀町文化創造館 銀河ホール	一般 1,000円 小中高生 500円 未就学児無料(要電話予約)	銀河ホール ☎0197-82-3240
	15(日)	13:00	公演中止			
	14(土)	14:00	第43回北上市民劇場 「土偶の家」	北上市文化交流センター さくらホール 中ホール	一般前売 1,000円 当日 1,200円 小学生以下無料	さくらホール ☎0197-61-3300
	15(日)	14:00	公演延期			
	15(日)	13:00 15:30 18:00	劇団もしよこお釜石公演第五弾 「黒猫を見たらさようなら」	sofo cafe (釜石大観音仲見世商店街)	前売・当日共 1,000円 (1ドリンク付)	劇団もしよこお(代表:小笠原) ☎090-7078-5543
	20(金)	19:30	* ライナーノーツ #2 「雪ぐ susu-gu」	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	前売一般 1,500円 U-24 1,000円 当日各500円増	✉linernotes@gmail.com
	21(土)	14:00				
	22(日)	11:00 14:00				
20(金)	19:30	* ボーイズドレッシング公演 #04 「偉大なる生活の冒険」 ダブルキャスト ＜20～22日: A日程＞ ＜27～29日: B日程＞	メゾン・ド・居抜き (盛岡市高松 1-12-5)	一般予約 1,000円 高校生以下 500円 当日各500円増	制作部 ☎090-9745-5123	
21(土)	14:00					
22(日)	14:00					
27(金)	19:30					
28(土)	14:00					
29(日)	19:00 14:00					
21(土)	9:00	いわて銀河ホール高校演劇アワード 2020	西和賀町文化創造館 銀河ホール	一般 1,000円 高校生以下 500円	銀河ホール ☎0197-82-3240	
		公演中止				
21(土)	14:30	* トラブルカフェシアター第24回公演 「まだ ここに いるのか」	旧石井県令邸	前売一般 2,000円 学生 1,500円 当日各500円増	遠藤 ☎080-1827-9467	
22(日)	11:00					
28(土)	14:30					
29(日)	11:00 14:30			5月に公演延期		
21(土)	14:00	盛岡四高演劇部 春の公演 2020	盛岡劇場 タウンホール	入場無料	盛岡第四高校(下河原) ☎019-636-0742	
		公演中止				
28(土)	14:00	デフ・パペット・シアター・ひとみ 第14回全国公演作品 人形劇「河の童 かわのわっぱ」	大船渡市民文化会館 リラスホール 大ホール	一般 1,000円 割引 500円 (高校生以下、65歳以上、障がいのある方) 3歳未満のひざ上鑑賞 無料	大船渡市民文化会館 ☎0192-26-4478	
28(土)	19:00	旋風の劇場 vol.2 パフォーマンスユニット BAZAR 「SPR.OUT」 ※ 3/29 11:00 / 4/1 15:00 の回は 未就学児入場可能(無料)	いわてアートサポートセンター 風のスタジオ	一般前売 2,500円 シニア 2,000円 (65歳以上) 学生 1,500円 (小～大学) 当日各500円増	tasse ☎080-7946-1246	
29(日)	11:00					
30(月)	19:00					
1(水)	15:00					
3(金)	19:00	公演日程変更				
4(土)	15:00					
5(日)	11:00					
1(水)	18:30	盛岡演劇鑑賞会第396回例会 劇団昂公演 「アルジャーノンに花束を」	盛岡市民文化ホール 大ホール	要会員券	盛岡演劇鑑賞会 ☎019-622-5073	
5(日)	13:00	盛岡劇場開館30周年記念特別企画 松本幸四郎芸談「高麗屋の芸」 シネマ歌舞伎「女殺油地獄」	盛岡劇場 メインホール	全席指定 6,000円	盛岡劇場 ☎019-622-2258	
8(水)	14:00	名作史劇 「玄朴と長英」	宮古市民文化会館 大ホール	前 売 2,000円 当 日 2,500円	宮古民商会館 電話0193-63-1346	
11(土)	19:00	FES Presents ショート・ショートⅣ 「Memory of "C"」	盛岡劇場 タウンホール	前 売 700円 当 日 900円	佐々木 ☎090-5830-8961	
25(土)	17:30	盛岡農業高等学校演劇部・平館高等学校演劇部 第2回合同公演	盛岡劇場 タウンホール	入場無料	盛岡農業高校(後藤) ☎019-688-4211	
26(日)	13:30	「男子校にはいじめが少ない？」				
5	9(土)	13:30 18:30	* 第49回盛岡芸術祭参加作品 ミュージカルシアトレほのか20周年記念 第14回本公演 「頭痛 肩こり 樋口一葉」	盛岡劇場 タウンホール	前売大人 1,200円 小学生 500円 当日大人 1,500円 小学生 700円	中村 ☎080-6004-0378
	10(日)	13:30				
	14(木)	18:30	タクフェス 春のコメディ祭! 「仏の顔も笑うまで」	北上市文化交流センター さくらホール 大ホール	前売・当日共 6,500円	さくらホール ☎0197-61-3300
	16(土)	18:00	盛岡市立高校演劇部 独立公演 2020	盛岡劇場 タウンホール	入場無料	盛岡市立高校(山屋) ☎019-658-0491
17(日)	14:00					

上記表内の[*]印は盛岡市民演劇賞 対象作品です

2020.3.14～2020.5.17

2020.2.15～2020.3.29はP7を参照ください→